

岡山市埋蔵文化財発掘調査速報展2019

と き 令和元年10月29日(火)・30日(水)
ところ 岡山市役所 1F 市民ホール

岡山城三之外曲輪跡 岡山市北区表町

再開発事業に伴って発掘調査を行いました。平成30年度は、平成31年2月から3月にかけて、約300㎡を調査しました。江戸時代の城下町絵図によれば、調査地点は三之外曲輪と呼ばれ、すくなくとも寛永9年(1632)には武家屋敷地となっています。

発掘調査では、江戸時代初期から後期(17世紀～19世紀にかけての武家屋敷の一角を確認することができました。井戸、埋め桶、柱穴、ごみ穴、等の遺構や、多数の陶磁器などの、当時の武士達の暮らしぶりを伝える、施設跡や生活用品を確認することができました。

これらの遺構の中には、火を受けて赤くなった瓦や壁土を多量に捨てた大きな穴が、確認されており、これは、宝永五年(1708)に岡山城下町でおこった大火事のあと、焼け跡を片付けた痕跡と考えられます。

造山古墳 岡山市北区新庄下

造山古墳は全国第4位の規模を誇る、墳長350mの前方後円墳として有名です。自由に立ち入れる古墳としては日本一大きい古墳です。岡山市教育委員会では2014年度より造山古墳群の保存整備事業として遺跡の範囲確認を目的とした発掘調査を実施しています。2018年度は、造山古墳西側の後円部～くびれ部周辺における葺石の有無の確認が目的です。

調査の結果、トレンチ2では、全面で葺石を確認しました。造山古墳の規模や墳形を今後追求していくうえで重要な発見といえるでしょう。また、トレンチ6では、地山と墳丘盛土の堆積状況を確認できました。

今回の成果を基に、今後の調査を計画していきます。

出土遺物は、トレンチ6から埴輪片が多数出土しました。これらの埴輪は保存状態が比較的良好で古墳の上に立て並べられていたものと思われます。大型の円筒埴輪や、蓋(きぬがさ)形埴輪が出土しています。

金蔵山古墳 岡山市中区沢田・円山

金蔵山古墳は操山丘陵のほぼ中央、標高100mほどの山頂に位置する前方後円墳です。墳長約160mを測り、古墳時代前期末から中期初頭ごろに築造されたとみられ、造山古墳以前では中四国九州で最大規模を誇ります。平成23年度から史跡指定を目指し測量調査、範囲確認調査を実施しています。

本年度は、後円部側の墳丘斜面や墳端等の状況を確認するため東側くびれ部に近い箇所に調査区を設定しました。その結果、トレンチ内では後円部墳端の埴輪列が検出され、5個体分が密な間隔で並べられていることが分かりました。この埴輪列は、

確認できた標高から前方部の下段平坦面に続くものと考えられます。また、埴輪列よりも墳丘側で、葺石と考え

られる石材を確認し、葺石と埴輪列の間には河原石が敷きつめられていました。反対に、埴輪列の外側では列石状の葺石が残されており、こうした埴輪列に葺石と盛土によってつくられるテラス状の段構造は金蔵山古墳に特有のものと言えます。

今回の調査で明らかになった遺構は、今後、後円部の進めていく上で重要な知見となります。さらに、埴輪列の円筒埴輪もこれまでの調査で出土したものと若干特徴が異なるものを主体に構成されており、比較検討が来年度以降の調査の中での課題となります。

